

【子どもたちに必要な力（育てたい力）について】

- ・ 学力というものが不透明になり、予想不可能な時代となる中、環境が変わっても「学び続ける力」や「自ら学んでいく力」が必要になる。
- ・ 今までのように受け身ではなく、子どもたち自身が学び取る力をつけていかないといけない。また、そうした力を地域に還元できるよう、子どもたちに地域に愛着をもつ子どもたちに育ててもらいたい。
- ・ 人権教育も大事だが、子どもが自らの権利をしっかりと自覚できるようにしたい。その意味で選択肢のある教育が大事になる。子どもの権利、その権利を発揮するための選択肢、それを認めていくための大人、相互に承認にしようことが子育てでも大事になる。
- ・ これからAIの普及やIT化が進展する中で人と接することが少なくなってしまうのではと危惧している。地域とのかかわりや人とのつながりを子どもたちにも忘れてほしくない。
- ・ 信頼感のベースには想像力が必要になる。物事の表面だけではなくその背景にあるものを想像できる力をどう養っていくか。子どもだけでなく教員はもちろん保護者や地域の方々にも必要。

【地域・社会について】

- ・ ○×を教える教育も大切かもしれないが、○でも×でもないような子どもの意見が受け入れられるような社会になれば良い。
- ・ 地域の大人が子どもに何かを教えるだけでなく、子どもと一緒に大人も学べるような場所があるとよい。
- ・ 学校が休校になって子どもと毎日いて、あらためて学校の大切さを知った。勉強だけではなく、人と人との関わりの大事さを知った。
- ・ 地域や人とのつながりにおいて一番大事なのは依存ではなくお互いに認め合うことである。
- ・ 杉並区はコミュニティスクールを大きく展開している。学校と地域が両輪になって子どもを育てていく。
- ・ 安心・安全、インクルージョン、ダイバーシティといったことにもっとフォーカスしたらよいと思う。
- ・ 多少人に迷惑をかけてでも、人と関わり人や地域に役に立つ人になっていきなさいと親が持っていないといけない。そのため、積極的に迷惑をかけても良いような、話しやすい、年の近い大学生などに話を聞いてもらう場があるとよい。
- ・ 学校はこの20年あまり、いろんな課題を抱え込み教員の多忙化にもつながっている。また多くのベテランの教員が辞めていく中で教員の指導力についての課題も出ている。学校の先生方が教育の専門職として活躍できるように地域社会がどう支えていけるか議論していきたい。

【子ども像・子ども観について】

- ・ 大人が決める望ましい「子ども像」というものを設定すると、そこにあてはまらない子どもたちが批判されたり更生されたりするのでそれは違うであろうと思う。そうした「子ども像」を示さないと議論が進みにくいという悩ましいところもあるが。
- ・ あるべき理想の「子ども像」ではなく、いわば「子ども観」、つまり子どもってこういう存在だよ、というものをわれわれ大人たちがしっかり考えていくことが必要。

【自己肯定感について】

- ・ 子どもたちの自己肯定感を大切にしたい。
- ・ 杉並の中学生を見ていて気になるのが自己肯定感の低さである。子どもが学校を好きで楽しく生き生きと活動できるようなことを考えていけない。
- ・ 大人も自己肯定感については低い。今の状態を学んで変えられるかと聞いても無理だと答える。子どもも一人一人の学力はとても高いが自己肯定感は低い。
- ・ PDCAサイクルでC（チェック）の段階で批判的評価を受けるとA（アクション）が小さくなるという悪循環になりやすい。海外だとチェックのところはいい評価をしなさい、いいところを認めましょうという国が多いが、日本の場合、評価というと悪いところを指摘して直させようとする傾向にある。こういう評価の在り方も考えないといけない。

【学びについて】

- ・ 杉並の目指す「学び」の定義のようなものをどこかでしっかり出した方が良い。
- ・ 従来、学校における学力が自明のこととして「学び」の成果と受け止められていた。学力をつければ人生なんとか渡っていけるとの社会的な共通認識があったがどうもそうではなくなってきた。これから日本の社会がどうなるか分からない中で、国や学校も、こういう学力をつければ大丈夫だよと言えなくなってしまった。その中で、「根っこ」を作っていくというのがまず大事になるのではないかな。
- ・ 教育ビジョン2012の「育みたい力」というところが、おそらく子どもたちの「学び」につながる部分ではないかな。

【学校・教育の役割について】

- ・ 強い個人を育てるということを全く否定はしないが、それが公教育の役割なのか。経済面などで厳しい家庭や子どもにどういうサポート、安心・安全を与えるため、学校はどんな体制を作らなくてはいけないのか。
- ・ 自分たちで人生を創っていく子どもたちを育てていくために、私たちは何ができるかという議論が必要である。

【新たな教育ビジョンについて】

- ・ コミュニティスクールや支援本部などの活動が子どもたちに大きな成果を与えている。基本的には、「教育ビジョン2012」を発展・継承させていくというのが望ましいと思う。

【特別支援教育について】

- ・ 特別支援教育を充実させることが目的ではなく、あくまでも共生社会の形成のために特別支援教育の手法を使っていくことが大事。

【就学前教育について】

- ・ 人生 100 年時代の子どもの育てるか、促成栽培ではなく根っこの太い人間をどう育てるかが重要。
- ・ 切れ目のない学びの中で就学前教育をビジョンの中でしっかりと位置付けること。
- ・ 区立子供園以外の私立幼稚園・保育園を含めた杉並区全体の就学前教育を底上げすること。教育の質がバラバラになっている。そのために、区立子供園の質の高い保育をどう生かすか具体的方策をビジョンの中にどう示せるか。

【ICTについて】

- ・ これまで杉並区は先進的に取り組んできたが、GIGA（ギガ）スクールが実現されると環境的には全ての自治体が横並びになる。その中で、10年先を見据えて、杉並のICT教育をどのように目標立てて展開していくかも課題になる。

【子どもたちの意見について】

- ・ 子どもたちがどんなに大人になりたい、どんな社会をつくりたいなど、このビジョンに直接反映させることができるか別として、子どもたちにも発言の機会を与えられないか。
- ・ 定期的に子どもたちが集まり教育長に提言などする「子ども教育委員会」のようなものができるとう面白い。
- ・ 子どもの意見を吸い上げることは非常に重要。この会議体においても子どもたちの声をしっかりと聴いて、できないことはできないと理由をきちんと説明しながら、できることについては子どもたちの意見を体現していく。自分たちがこういうことを言えば変わっていくのだという実体験を子どもたちにさせることが子どもたちの生きる力、エネルギーにもなっていくのではないか。

以 上